

はたらく親を応援する市民活動支援のための 市民投票及び団体育成研修に関する実施報告



1. 事業（市民投票）の目的

はたらく親を応援する活動を行う市民活動団体への事業費助成の決定にあたり、市民の意見収集を通じた採否決定を目的に「はたらく親を応援する」市民活動支援のための投票を実施。50%以上の支持・共感を得た事業に事業費助成の採択を行う。

2. 市民投票の方法と結果について

（1）対象者

本市にお住まいの20代以上で子育て中の方から無作為に抽出した2,000人

（2）サンプル数

年代	20代	30代	40代	50代	合計
女性	150人	562人	554人	75人	1,341人
男性	150人	238人	246人	25人	659人
合計	300人	800人	800人	100人	2,000人

（3）投票期間

令和7年6月16日～令和7年6月27日

（4）投票方法

投票案内を郵送し、記載されたQRコードよりWEB投票を行う。

【プレゼンテーション研修を受けた市民活動団体が、市民に向けその事業を公開プレゼンテーション（プレゼンテーション動画のWEB公開）し、事業助成の採否を問うアンケート内容】

(5) 投票対象事業

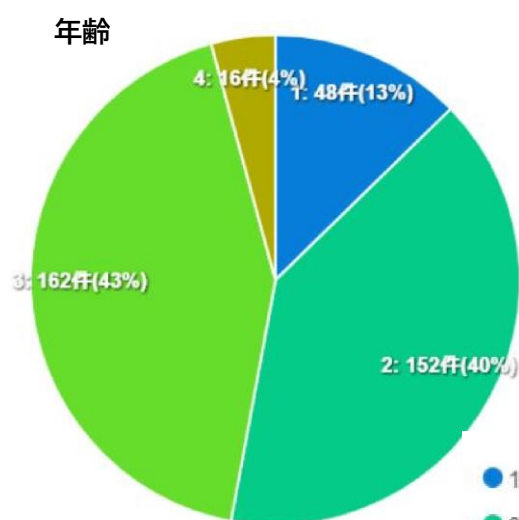
団体名	事業名	事業額 (a) (円)	助成申請額 (b) (円)	助成率 (b)/(a)(%)
ハピコミクラブ	家族を楽しむ！ほっとスマイル・プロジェクト	237,000	213,000	89.9%
雁宿小学校避難所運営委員会	親子で学ぶ！安心防災デー～発災時の心構えと行動を体験しよう～	200,000	180,000	90.0%
公益社団法人半田青年会議所	チャレンジ&グロー！仲間と乗り越える大冒険	990,000	500,000	50.5%
計		1,427,000	893,000	62.6%

(6) 投票結果

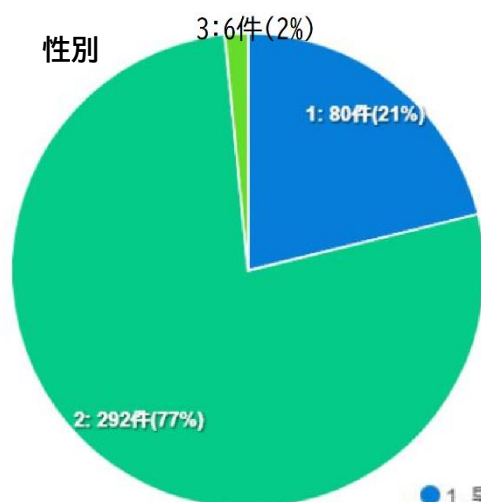
団体名	支持共感 する(人)	支 持 率	支持共感し ない(人)	不 支 持率	総計(人)	回答率
ハピコミクラブ	279	73.8%	99	26.2%	378	18.9%
雁宿小学校避難所運営委員会	306	81.0%	72	19.0%	378	18.9%
公益社団法人半田青年会議所	223	59.0%	155	41.0%	378	18.9%

※投票の結果対象3団体すべての事業を採択決定

(7) 投票者内訳



- 1. 20代
- 2. 30代
- 3. 40代
- 4. 50代

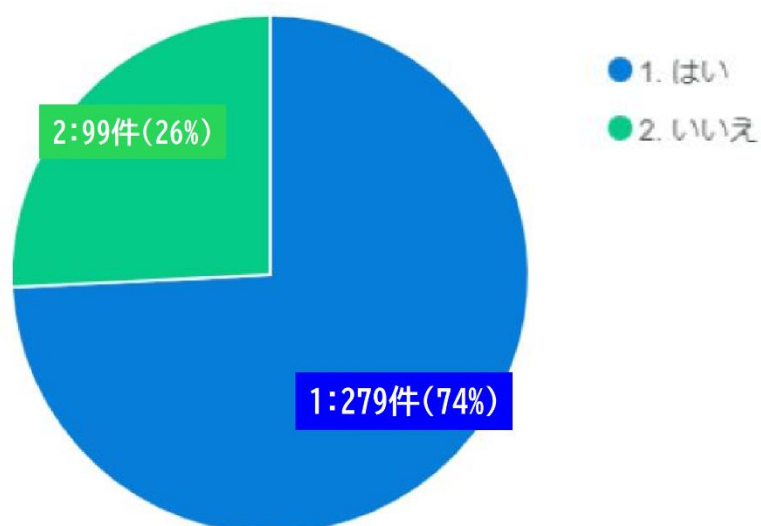


- 1. 男性
- 2. 女性
- 3. 回答しない

3. 各団体の事業に対する市民投票回答について

3.1 ハピコミクラブ「家族を楽しむ！ほっとスマイル・プロジェクト

(1) ハピコミクラブ「家族を楽しむ！ほっとスマイル・プロジェクト」事業に対し「いいね！（支持・共感）」しますか？（必須回答）



(2) 「はい」または「いいえ」と答えた理由（任意回答）のまとめ

ア 支持（「はい」）の意見の集約

(ア) 支持の主な理由

a. リフレッシュが親にとって重要

- 育児ストレスを軽減し、親の心身の健康を保つ場を提供していることが評価されている。
- 特に「親がリフレッシュできる時間があるのはありがたい」という意見がある。
- 子どもと離れて自分の時間を持つ意義が大きいと感じている声がある。

b. 孤独感の解消・コミュニティ形成

- 子育て中の親が孤立せず、悩みを共有できる場の必要性を感じている。
- 他の親との交流が育児の負担軽減や情報共有に役立つとの考え。

c. 子どもにとっての経験の場

- 子どもが他者と交流し、さまざまな体験ができる場として有益。
- 創造性を育むワークショップや親子のふれあい活動に魅力を感じている。

d. 働く親への支援

- 育児と仕事を両立する親にとって、心身のケアを提供する取り組みは必要との意見が多い。
- 「働く親が笑顔になれる環境づくり」というコンセプトに共感。

(イ) 具体的な支持の声

「働く親の世代が心身ともに健康であると家族や子供も幸福度が上がるという考え方に共感しました。」

「乳児期の子育て世代の孤立防止は大切かと思います。」

「親子で楽しむ場があるのはいいと思います。」

「子供の楽しい、と親の育児ストレス軽減が嬉しいと感じたから。」

イ 不支持（「いいえ」）の意見の集約

(ア) 不支持の主な理由

a. 既存の活動との重複

- すでに類似する活動や施設があるため、特別感がないという意見がある。
- 「はんだっこ」や他の子育てサロンと内容が重複しているとの指摘。

b. 働く親が利用しにくい

- 働く親が参加できる時間的余裕がないという現実的な問題。
- プレゼン内容が「働く親」向けというより「専業主婦」や「育児中の母親」向けに感じられるとの意見。

c. 父親への配慮が不足

- 「子育て＝母親」という固定観念を助長しているように感じられる。
- 父親も対象に含めた活動にすべきとの指摘。

d. 効果や必要性への疑問

- 「このような取り組みで育児問題が解決するとは思えない。」
- 予算が高すぎる、もしくは助成金を使うべきではないという意見。

(イ) 具体的な不支持の声

「働く親が参加するために時間を作る余裕があるのか疑問。」

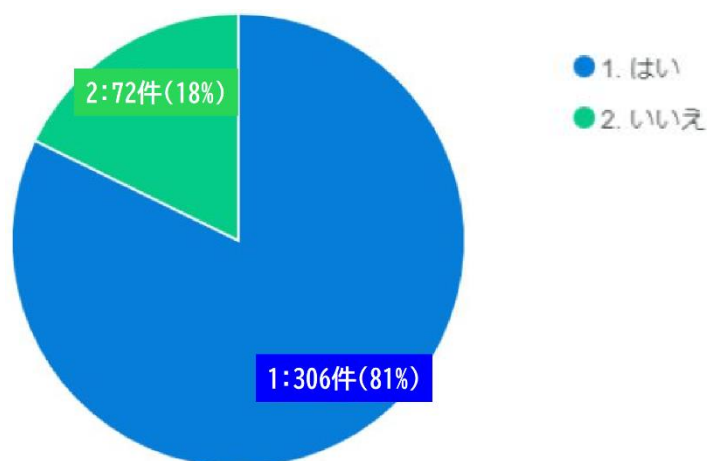
「今でも同じような活動施設があるように思うから。」

「ママが主語になっているところに疑問を感じた。」

「もっと直接的な施策にお金を使って欲しいです。」

3.2 雁宿小学校避難所運営委員会「親子で学ぶ！安心防災デー ～発災時の心構えと行動を体験しよう～」

(1) 雁宿小学校避難所運営委員会 「親子で学ぶ！安心防災デー ～発災時の心構えと行動を体験しよう～」事業に対し、「いいね！（支持・共感）」しますか？（必須「回答」）



(2) 「はい」または「いいえ」と答えた理由（任意回答）のまとめ

ア 支持（「はい」）の意見の集約

(ア) 支持の主な理由

a. 親子で防災を学ぶ重要性

- 災害発生時に親子が離れている可能性が高く、事前に親子で訓練や知識を共有する場が必要との意見が多い。
- 子どもが一人でいた場合でも身を守る行動を取れるようにするための学びの場が大切と考えられている。

b. 防災意識の向上

- 南海トラフ地震などの大規模災害への危機感から、日ごろから防災意識を高める取り組みが必要との意見が多い。
- 親子で防災について考える機会が少ない現状を踏まえ、行政主体での活動が評価されている。

c. 体験型訓練の効果

- 実際に体験することで、災害時に冷静に判断・行動できるようになるという期待が寄せられている。
- 親子で避難訓練を行うことで、災害発生時の役割分担や行動計画を共有できることが重要視されている。

d. 地域との連携

- 家族だけでなく、地域全体で防災力を高める機会として活用できる点が評価されている。

- 地域住民や防災リーダー、専門家との連携を通じて、より実効性のある対策を学ぶことが期待されている。

(イ) 具体的な支持の声

- 「親子で地震を学ぶ機会がないため。」
- 「南海トラフがいつ起きてもおかしくない状況で防災意識を高めていくのは大切だと思う。」
- 「災害時に子供達自身が自らどんな行動をするといいのか、祖父母との連携を親子で学びたいです。」
- 「地域全体で防災力の向上を目指すという点も良い。」
- 「一番実用性がある。」
- 「災害発生時への備えを親子で学べる場は大事だと思ったから。」

イ 不支持（「いいえ」）の意見の集約

(ア) 不支持の主な理由

a. 既存の取り組みとの重複

- 学校や地域で既に防災訓練が行われており、新たに市の事業として実施する必要性を感じないとの意見。
- 町内会や学校の防災訓練と重複する内容であるため、別途予算を使うべきではないとの指摘がある。

b. 対象の限定への疑問

- 「はたらく親」に限定する必要はなく、防災はすべての住民に関係するものであり、対象を広げるべきという意見がある。

c. 参加率の懸念

- 忙しい親が参加する時間的余裕がないため、想定される参加者が少なく、効果が限定的ではないかとの意見がある。

d. 費用対効果への疑問

- 市の税金を使ってまで実施するほどの必要性は感じられず、他の方法で十分対応できるとの意見がある。
- 学校の防災教育や地域活動を活用する方が効果的との指摘がある。

(イ) 不支持の具体的な声

「学校の防災教育と連携を強める方向で活動した方が、市民活動として別で活動する今回の形より効果が高いと感じたため。」

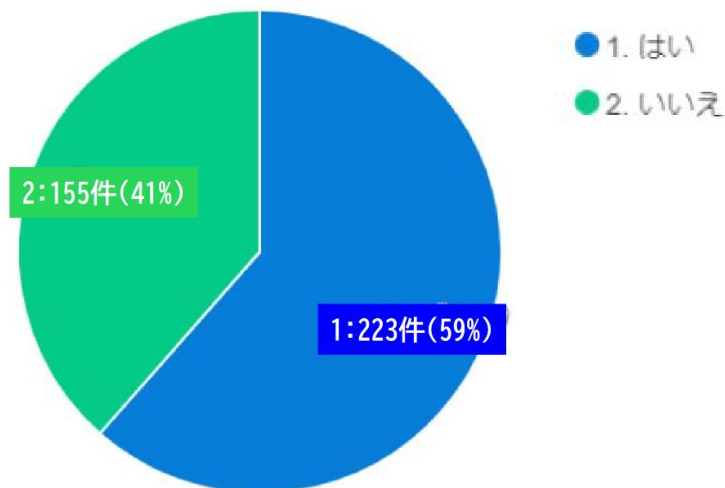
「はたらく親を掲げる必要があるのかがよくわからなかった。防災は地域住民すべてに関わることなので。」

「参加する人が少ないと思いました。」

「わざわざ市の税金を使用してまでやるべきことか率直に疑問に思った。」

3.3 公益社団法人半田青年会議所「チャレンジ&グロー！仲間と乗り越える大冒険」

(1) 公益社団法人半田青年会議所 「チャレンジ&グロー！仲間と乗り越える大冒険」事業に対し、「いいね！（支持・共感）」しますか？（必須回答）



(2) 「はい」または「いいえ」と答えた理由（任意回答）のまとめ

ア 支持（「はい」）の意見の集約

(ア) 支持の主な理由

a. 自己肯定感を高める意義

- 子どもの自己肯定感を育てることが重要であり、親としてもそのための接し方を学ぶ機会は有益との意見があった。
- 成長や自立を促す活動として有効であると感じる声が複数寄せられた。

b. 非日常体験の価値

- 登山や宿泊活動など、日常生活では得られない挑戦や成功体験を通じて、子どもが自信を持つきっかけになるとの評価。
- 仲間との協力や達成感を学ぶ良い機会になるとの意見。

c. 親子への学びの提供

- 子どもだけでなく、親向けセミナーが併設されている点が評価されている。
- 「見守る子育て」や過干渉の防止に関する学びが得られる点が意義深いと感じる親がいる。

d. 地域性と継続性への期待

- 地域での取り組みとして新しい試みで、今後も継続してほしいという声がある。

(イ) 支持の具体的な声

「非日常的な体験を通して自信をつけ、互いのことをより知るきっかけになる。」
「自己肯定感にフォーカスする取り組みに共感。」

「やはり過干渉までに行かなくとも先回りしてしまいがちなので、子の自己肯定感を高め、親としても見守りの意識を持つ機会は大恵だと思う。」

「登山をする機会は少ないし、親以外の人と関わるよい機会になると思うから。」

イ 不支持（「いいえ」）の意見の集約

（ア）不支持の主な理由

a. 予算の高さへの懸念

- 事業にかかる予算が高すぎるとの指摘がある。
- 他の用途に予算を回すべきとの声がある。

b. 対象者が限定的

- 対象年齢が小学3～6年生に限られており、広く全体に恩恵を与える事業ではないと感じる意見が多い。
- 共働き家庭や一部の家庭にしか適用されない点への疑問。

c. 活動内容への疑問

- 「なぜ登山なのか」といった活動内容の選定理由に納得できないという意見。
- 登山が自己肯定感向上にどの程度有効かが不明確との声。

d. 既存の取り組みとの重複

- 学校や地域で同様の活動が行われているため、新たに事業として行う必要性を感じないとの指摘がある。

（イ）具体的な意見

「予算が高すぎるから。」

「この事業で自己肯定感が高まる割合はどれぐらいとみるかがきになった。」

「活動内容の必要性がよくわからなかった。学校教育現場でもできそう。」

「一部の限られた家庭しか参加できなさそう。」

「費用対効果がどれくらいあるのか懐疑的。」

4. はたらく親を応援する取組に関する意見の集約

市民投票の中で、「はたらく親を応援する取組として、こんな企画があったら参加してみたいなど、ご意見・ご要望（任意回答）」を伺いました。以下に主な意見をテーマ別にまとめます。

（1）現状の課題と要望

ア 学童・保育環境の充実

- 長期休暇や祝日に学童を運営してほしい。
- 学童保育料が高額で利用しにくい。近隣市と比較して料金の見直しを求める声が多い。
- 発達障害児や障害児への学童保育の受け入れを拡充してほしい。
- 未満児の保育料を無料にしてほしい。

- 第二子以降の保育料無償化や育休中の保育園継続を求める声がある。
- 病児保育の枠を増やし、利用しやすい環境を整備してほしい。

イ 時間的・金銭的負担の軽減

- 時間に追われる日常の中で、家事代行や送迎、夕食支援などの具体的なサポートを要望する声がある。
- ゴミ袋代やオムツ代の補助、子ども食堂の拡充など金銭的な支援を求める意見も多い。
- 「現金支給」や「税金の減額」を求める声の一部であった。

(2) 具体的な企画案に関する要望

ア 親子で参加できるイベント

- 親子で体験型のイベント（キャンプ、アスレチック、カレー作りなど）を希望する声。
- 小中学生向けのスポーツ大会（卓球、ドッジボールなど）や自然体験の企画提案。

イ 子ども向けの独立型イベント

- 子どもだけで参加できるイベント（職業体験、フリーマーケット、芸術鑑賞会など）を求める声が多い。
- 夏休み中に子どもが安全に過ごせる居場所や活動の場を提供してほしいとの意見が目立つ。

ウ 働く親のリフレッシュと学びの場

- 「親がりフレッシュできる企画」（マッサージ、サロン、講座参加）を求める声がある。
- 栄養学や時短レシピ、育児に役立つ講座（モンテッソーリ教育、知育玩具の活用法など）への関心が見られる。
- 父親向けの講座や「パパ友を作る場」など、男性の育児参加を促す取り組みを希望する意見もあった。

(3) 支援のあり方に対する意見

ア 企画の実効性に対する疑問

- 「企画に参加する時間がない」との意見が多く、現実的な負担軽減を求める声が目立つ。
- 「税金を使ってまで行う必要があるのか」「もっと直接的な支援に予算を使うべき」との指摘が複数あった。

イ 支援の公平性

- 一部の家庭や状況に偏らない、広くすべての子育て世帯に恩恵がある施策を求める声が多い。
- 障がい児や外国籍世帯への支援が不足していると感じるとの意見が見られた。

ウ 広報の強化

- 市の取り組み自体が知られていないとの指摘があり、広報活動の強化を求める声があった。
- SNS や妊娠中のパパ・ママ教室での情報提供など、接触機会を増やす工夫が必要との意見が多い。

学童・保育環境の充実、金銭的・時間的負担の軽減、親子で楽しめる活動の充実が求められており、また、すべての家庭に公平に恩恵が届く支援策の設計と、広報活動の強化を求める声がありました。

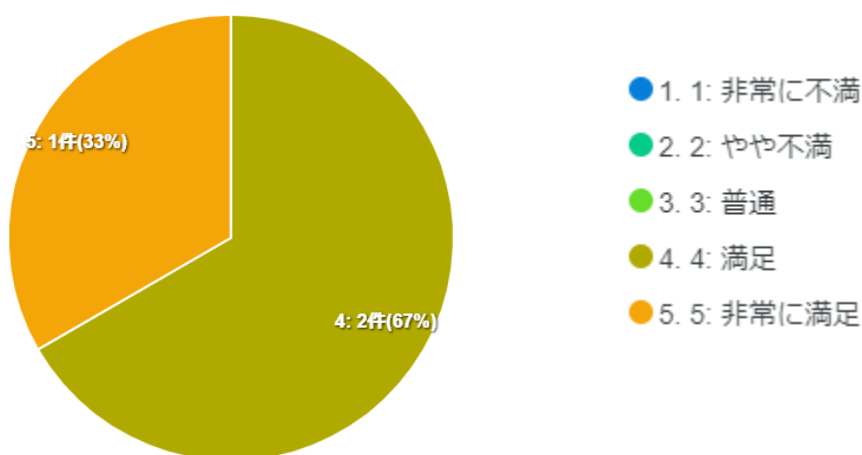
今後、これらの意見をもとに、具体的な施策及びテーマを検討し、はたらく親を支援する市民活動環境のさらなる整備を目指します。

5. 市民活動団体育成プログラムについて

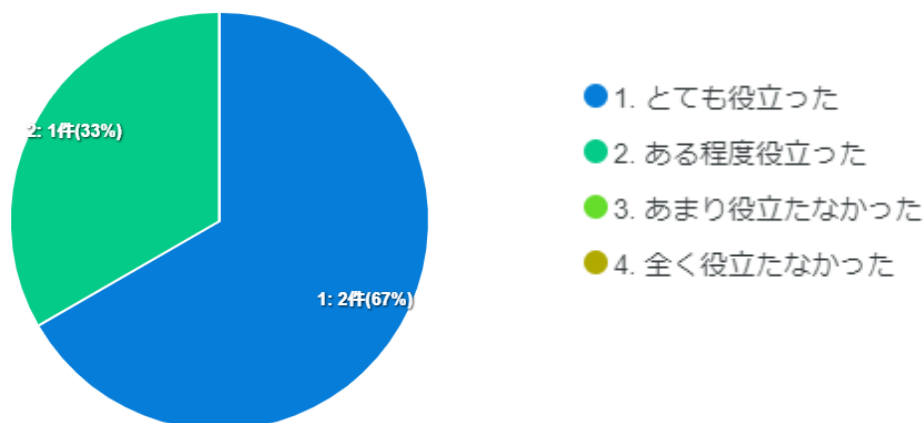
市民活動団体は、プレゼンテーション動画の公開に向け、1回の合同研修及び1回の個別研修を受講しました。この研修では、活動内容や表現方法を見直し、団体としての能力向上や事業精度の向上を目指しました。以下に、研修後に実施したアンケートをまとめます。（受講3団体）

5.1 アンケート結果

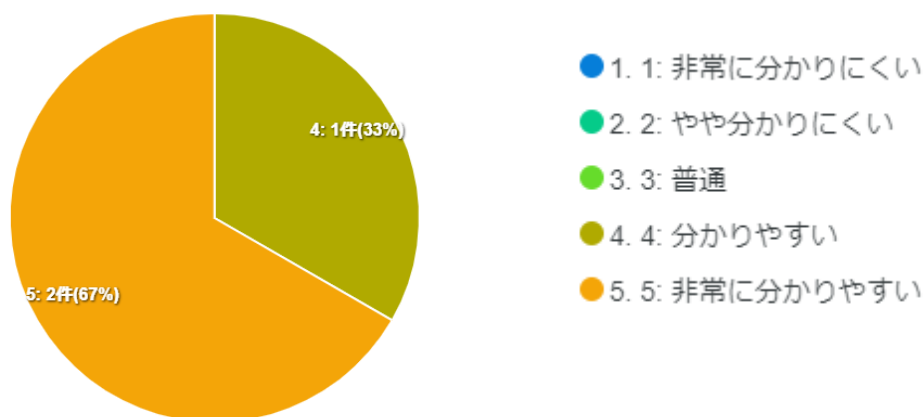
（１）プレゼンテーション研修の全体的な満足度を教えてください。（5段階評価）



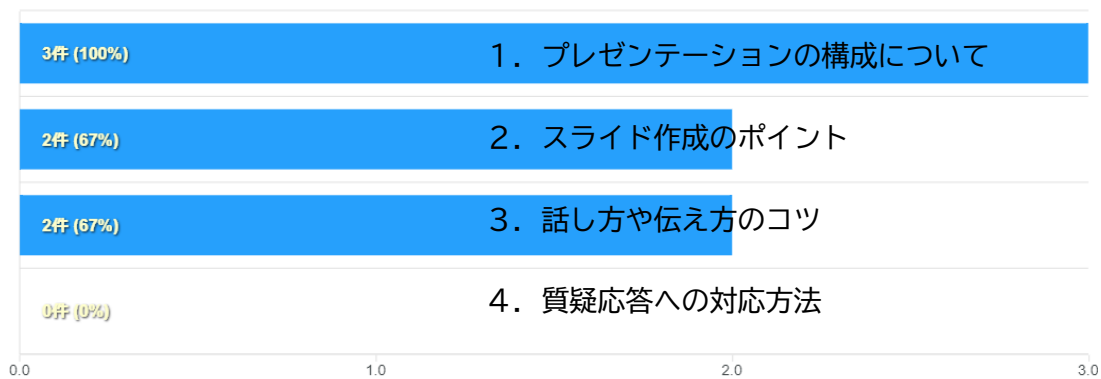
（２）プレゼンテーション研修は動画公開準備に役立ちましたか？（単一選択）



(3) 研修の内容は分かりやすかったですか？(5段階評価)



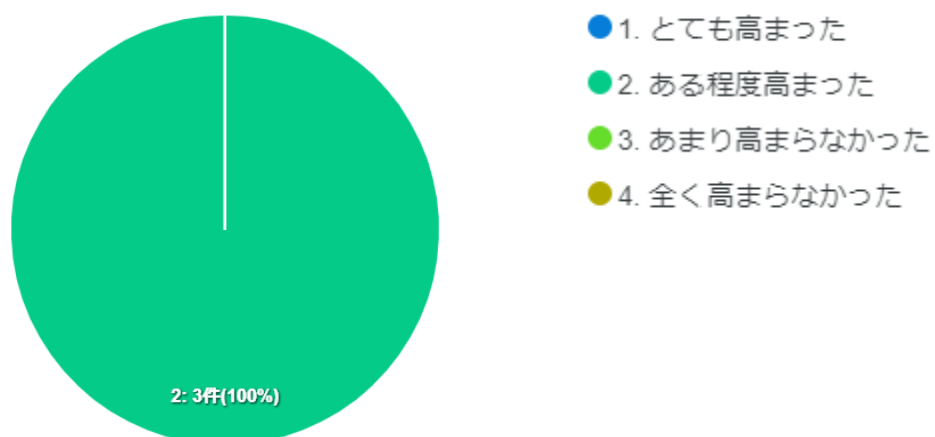
(4) 研修で特に有益だと感じた内容を教えてください。(複数選択可)



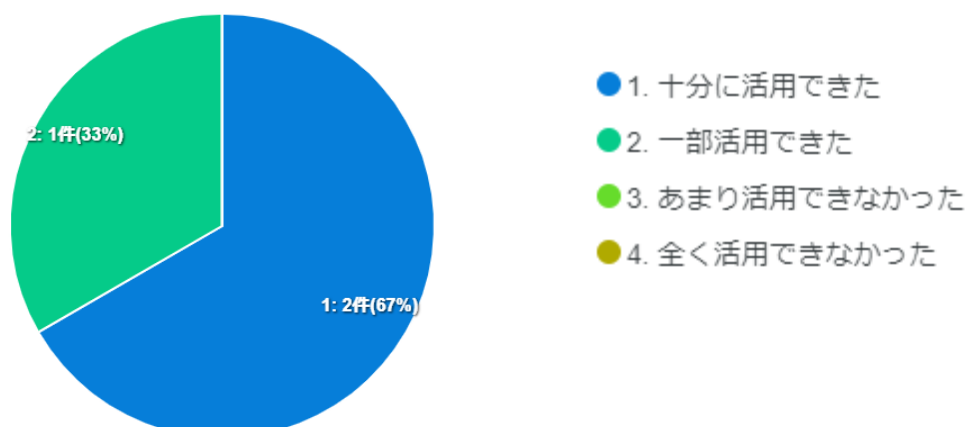
(5) 研修内容で、もっと深く知りたかった項目があれば教えてください。(自由記述)

「プレゼンでの話し方や話し手の見せ方などを、もう少し指導していただけたらありがたかったです。」

(6) 研修を受けたことでプレゼンテーションに対する自信は高まりましたか？(単一選択)



(7) 実際のプレゼンテーションにおいて、研修内容を活用できたと感じましたか？（単一選択）



(8) 今後のプレゼンテーション研修で改善した方が良いと感じる点を教えてください。（自由記述）

「話す声のトーンやスピード、目線や見せ方などは改善したいと思いました。」

(9) その他、プレゼンテーション研修に関するご意見や感想があればお聞かせください。（自由記述）

「詳しく、丁寧に教えて頂きありがとうございました。」

「伝わりやすくまとめることを通じて、また、客観的に見ていただいたことによって、何をメインにするのか？魅力などが、改めて把握できました。良い機会をいただき、ありがとうございました。」

5.2 研修総括

プレゼンテーション研修は全体的に高い満足度を得ており、「プレゼンテーションの構成」が特に有益だと評価されました。研修内容はわかりやすく、実際のプレゼンテーションで十分活用できたとの声もあり、参加者の自信向上にもつながっていることが伺えます。また、「魅力の把握」に役立ったとの感想も寄せられ、受講団体にとって有意義な研修となったと言えます。次年度以降は、さらに多様な市民活動団体が効果的に活動を発信できる支援策を整備していきます。

6. まとめ

本事業は、「はたらく親を応援する」市民活動団体の育成支援を目的に、市民の意見を反映した投票を通じて助成対象事業を採択する取組として実施しました。市民活動団体に対しては、プレゼンテーション研修を提供し、事業精度や発信力の向上を図ることで、事業の魅力を効果的に市民へ伝える基盤の構築支援を実施しました。また、市民投票を通じた、市民と協働した意思決定プロセスを実現し、地域課題解決を図る市民活動への支援を行うことができました。一方で、市民投票回答率の向上、支援の公平性の確保、広報のさらなる強化といった課題も残されています。

今後は、これまでの成果と実績を踏まえ、市民活動団体の成長を継続的に支援し、地域全体での協働を強化することで、持続的な市民活動支援を行っていきます。これにより、「はたらく親」をはじめとした多様な市民にとって住みよいまちづくりの実現を目指します。

市民、行政、市民活動団体が協働し、多様な団体の参画を促進することで、地域社会の持続的な発展を支える取組を深化させていきます。